

# 令和7度「一中の教育を振り返る意識調査」 学校評価の結果と考察

調査実施日 令和8年1月23日～30日

## 1 調査について

本校では、毎年、教育活動や学校運営について継続して改善を行うために、「一中の教育を振り返る意識調査」を行っている。これは、今年度の学校経営方針について、保護者・生徒・教員の三者にアンケート形式で調査をしているものである。学校経営方針の5分野16項目についての質問項目とし、上記日程で保護者・生徒・教員の三者にアンケート形式で調査を行い、Microsoft Formsを活用し、回収したアンケートの結果をまとめて分析した。ただし、生徒は教室で一斉に回答している。

※回答は「4：そう思う」「3：ややそう思う」「2：あまりそう思わない」「1：そう思わない」からの選択

## 2 調査結果と考察

### (1) 総評

「4」「3」の合計が80%を超える評価は、16の評価項目中、保護者9項目、生徒15項目全部、教員14項目であった。近年、生徒と教員との意識にずれが生じている傾向が見られたが、今年度は生徒の評価がとても高いものとなった。これは、様々な教育活動において、生徒の活動を価値づけたり適切に評価したりすることによって、生徒が自信をもって自らの活動を評価できるようになったものと思われる。

また、全体的な一中学生の良さとして、素直で明るくあいさつが良いことや仲の良さ、行事への取り組み、ボランティア活動への協力があることなどの記述が多く見られた。一方、課題としては時間行動の意識、学習への取り組みの積極性など、自主性や積極性、表現力が足りないことなどがあげられた。伝統ある一中の良さを引き継ぎつつ、これからの予測困難な時代（VUCA）を、たくましく生き抜く力を身に付けられるような教育活動を展開していきたい。さらには、山形県第7次教育振興計画にもあるような「挑戦（チャレンジ）」をキーワードに、「学びの実現」、「学びの機会の充実」、「学びの環境を整え」、時代の変化にも対応しながら活力あふれる学校づくりを目指していく。

### (2) 成果

「4」「3」の合計が、生徒、教職員ともに80%以上の高い評価を得たのは、全部で14項目であり、特に高かったのは次の3項目である。

- |   |         |
|---|---------|
| <input type="checkbox"/> 「いのち」を大切に作る心を育て、自己有用感を高める教育の推進   | 項目3 (1) |
| <input type="checkbox"/> 互いの個性を尊重し、高め合いながら、共に伸びようとする力の育成。 | 項目3 (2) |
| <input type="checkbox"/> よりよい生き方についての考えを深める道德教育の充実        | 項目3 (3) |

いずれも学校経営方針3『いのち』を見つめ、『志』を育む教育の推進』に関わる項目である。本校では「一中いのちの日」を定めており、今年度は合計6回の活動に取り組んだ。平成17年度

から行っているこの活動は、年ごとに形を少しずつ変えながらも本校の特色ある取り組みの一つとして継続している。今年も、外部講師の先生をお招きして「自己肯定感を高めるためには」というテーマで講話を聴いたり、各学年で性に関する講話や、いじめによって大事な家族を失った方の経験談をお聞きする機会を得たりした。また、「被爆ピアノコンサート」を体育館で開催し、平和の尊さや命の大切さに触れる機会も得た。このような「いのち」に関する活動は本校の特色ともいえる。保護者記述の中には今年も継続してほしいという言葉とともに、日頃の生徒の行動や言葉遣いから「いのち」の教育の効果について疑問の声もいただいた。多感な時期の生徒の琴線に触れるような「いのち」の教育となるように工夫を図っていきたい。

「4」「3」の合計が、保護者、教職員ともに80%以上の高い評価を得たのは、次のとおりである。

□生徒会・学級・学年活動におけるPDCAサイクルの確立	項目2 (2)
□学校行事や生徒会活動等による社会性や貢献意欲、自尊感情の育成	項目2 (3)
□「いのち」を大切に作る心を育て、自己有用感を高める教育の推進	項目3 (1)
□互いを尊重し、高め合いながら共に伸びようとする力の育成	項目3 (2)
□授業や魅力ある教育活動を行うための準備時間の確保	項目4 (1)
□校内、校外研修への参加、若手教員を全職員で育て支援する同僚性の醸成	項目4 (2)
□学校評価の結果を踏まえた教育課程編成と地域・保護者への周知	項目5 (3)

7つの項目について高評価を得た。昨年度と同様の5項目に、新たに項目2(2)、項目4(1)の二つが加わった。生徒会や学級・学年活動において、自分たちで決めたことを自分たちで実行し、振り返りを行ってさらに次の活動へ生かすという流れが確立されてきている。また、教職員記述には4(1)(2)に関するものが多く、働き方改革が徐々に進んできていること、教職員同士の仲間意識、同僚性を発揮した教育活動が充実していきいていることなどがうかがえた。また、保護者記述の中には、教職員と生徒の関係の良さや、一人ひとりをよく見ているという声をいただいた。今後も保護者の方との信頼関係を大事にし、子供たちが安心して通える学校づくりを目指していきたい。

### (3) 課題

保護者、生徒、教職員いずれも「4」「3」の合計が80%以下の評価項目はなかったが、保護者・教員の二者が低い評価だったのが、次の項目で、昨年度と同様であった。

#### ■ 「1人1台端末」を有効活用した個別最適な学びと協働的な学びの実践 項目1 (2)

タブレットの有効活用について、保護者51 (R6は58%)、生徒88% (R6は81%)、教員67% (R6は72%)と三者間に開きがある。今年1月に新しいタブレットが導入され、これまでよりも動作環境がよくなった。教科の授業はもちろん、総合的な学習の時間における探究学習ではタブレットを用いて調べ学習をしたり発表原稿を作成したりとタブレットは一つのツールとして当たり前になってきている。生徒と教職員に開きがあるということは、生徒は有効に使えていると思っているが、教職員間ではタブレットの活用について個人差があったり、もっと活用し

たいという思いがあったり、活用の可能性がまだまだあると思っているからだろうと思う。どのような使い方があるが、さらに研鑽を積み、同時に、情報モラルやネットリテラシーの指導も行いながら、有効活用について探っていく必要がある。

教員の評価より生徒の方が10%以上低い評価項目は、次の項目であった。

■主体的に取り組み、教科の見方・考え方を働かせる授業の充実

項目1 (1)

生徒の評価が昨年度は72%で今年度は81%と昨年度比+9、教員は92%が94%と評価自体は上がっているが、生徒と教員の差は13%である。授業の改善は我々教員に課せられている重要な課題であるが、1時間の授業、あるいは一つの単元の中で、何のためにどんな力をつけるのか、教科の見方・考え方とはどういうものなのか、というのがあまり生徒に伝わっていないのではないかと考えられる。生徒が持っている知的好奇心や探究心を揺さぶるような単元づくりをし、課題を生徒と共有して授業を進めることが一層大切である。「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」のために、生徒主体となるような授業改善をしていきたい。

教員の評価より保護者の方が20%以上低い評価項目は、全部で4項目あり、中でも差が大きかったのが次の二つである。

■生徒が主体的に取り組み、かつ各教科の見方・考え方を働かせる授業の充実

項目1 (1)

■よりよい生き方についての考えを深める道德教育の充実

項目3 (3)

この項目二つは昨年度と同じ結果となった。保護者記述においては、授業や宿題といった学習に関する課題についての記載が見られた。また、授業の様子はよくかわらないという声もいただいた。今年度もフリー参観に加え、3年生の「総合的な学習の時間」の発表の場面を見ていただく機会を設けたが、さらに様子がわかるような工夫をしていきたい。保護者の方の学力向上に関する関心は高く、質の高い授業が求められている。「総合的な学習の時間」で取り組んできた探究学習や道德の授業で育まれたものの見方や考え方が他の教科の学びにも広がり、たくましく生きる生徒の育成につながるよう、授業改善を図っていく。

<参考>

## 学校関係者評価について

2月20日（金）、本校の自己評価を開示し、学校運営協議会の委員による学校関係者評価を実施した。

### 1 項目1（2）「1人1台端末を有効活用した個別最適な学びと協働的な学びの実践」について

タブレットは小学校から使用しており、だいぶ生徒たちも使えるようになってきている。生徒と教員の評価の差はどういったところから来るのか考えたとき、生徒にとっては当たり前のツールになっているが、教員にとってはさらに有効活用できる場面があるものと思っているからだと推測する。単元によって、授業によって使っている場面とまだ使っていない場面とがあるのが実際のところである。電子黒板も含め、さらなる有効活用について探っていきたい。情報モラルやネットリテラシーの指導の重要性についてもご意見いただいた。生徒だけではなく保護者への啓蒙の必要性も話題になった。

### 2 項目1（3）「総合的な学習の時間における探究的な学習の充実」について

総合的な学習の時間に探究学習に取り組んで3年目になる。今年は研究授業時に保護者の方にもグループに入ってアドバイスをもらったり、「探究ヘルプデスク（芸工大）」と連携したりするなど、一層の推進を図ることができた。このような取組が生徒を成長させている、というご意見をいただいた。入試制度も今年度から変わり、総合的な学習の時間の取組が問われる高校もあった。市内の中学校に先駆けて探究学習に取り組んできた意義が大きいものと思っている。今年度の成果と課題を整理し、来年度の取組へとさらに発展させていきたい。

## 全体を通して

委員の方からは、「生徒の評価が高くなったこと、自己肯定感が高まっているのではないか、学校が楽しいという記述が多く見られること、大変嬉しく思う。これからも自信を持って活動してもらいたい。駅伝県大会の応援のときに生徒会長が『自分たちの学校すごいよ』と誇らしく語っていたことにとっても感動した」という話をいただいた。これまで自己肯定感が低いという課題があったが、生徒の活動を価値づけたり評価したりすることを継続してきた結果ではないかと思っている。

他、学校運営協議会では今年度の本校の取組についてご意見をいただいた。一中で大切にしたいことを、地域と連携できること、などこれからも地域に根ざした山形一中としての教育活動を行っていく。